

年頭あいさつ

年頭にあたり組合員並びに関係機関の皆さまに謹んで新年のごあいさつを申し上げます。本年も皆さまにとって素晴らしい一年になりますようご祈念申し上げます。

困難乗り越え再生に弾み 海と共に、恵みを受けて

経営管理委員会会長・丹野一雄



さて、昨年を振り返りますと「復興」から「再生」へ確かな進展がみられました。また、銀サケの数量および水揚単価も2年連続で良好となり、これから生産期となることもあり、今年こそは回復するよう期待します。

さて、昨年を振り返りますと「復興」から「再生」へ確かな進展がみられました。また、銀サケの数量および水揚単価も2年連続で良好となり、これから生産期となることもあり、今年こそは回復するよう期待します。

生育がみられ、今後の水揚げに期待が持てます。さらに漁船漁業も好調で、震災前の価格水準で取り引きされており、これもひとえに、消費者に対する安定供給に努めた組合員のたゆまぬ努力と関係者の皆さまの協力のおかげです。当組合は今後も組合員の生活再建・向上を精一杯支援していく所存であります。そのために販路拡大を優先課題とし、消費者の視点に立ち「安心・安全な宮城の水産物」を積極的にPRしてまいります。

さらに漁協の収益拡大と組織経営の改善を目指し、役員一丸となって事業にまい進してまいりますので、皆さまのご理解とご協力をお願い申し上げます。

伊丹幸一氏が優勝

審査会、準は大石頭氏

鹽竈神社「献上のり」

皇室への「献上のり」の栄誉を競う新年恒例「奉献乾海苔（ほしのり）」品評会の審査会が1月5日、塩竈市の鹽竈（しおがま）神社で開催された。当組合七ヶ浜支所、蒲田地区の伊丹幸一さんが優勝、同支所東宮地区の大石頭さんが準優勝に輝いた。



④ 101点を慎重にチェックした「献上のり」の審査会 ⑤優勝した伊丹幸一さんの乾のり

表彰式は11日、同神社で行われた。皇室献上は2月上旬に予定される。品評会は昭和23年に始まり、今年が70回目。当組合と産業振興大協賛会が主催。他ののり産地にはない催しで、当組合の「みちのく寒流のり」の生産意欲向上と技術改良に大きな役割を果たしてきた。

伊丹さんと大石頭さんは初優勝、準優勝となる。伊藤審査委員長は講評で「色、つや、仕上がりの姿の3点がそろって素晴らしいのりといえる。一番は色で黒いほど良く、つやがあるような黒でないといけない」と審査のポイントを説明。

▽1等 津田大（矢本）、丹野侃（石巻湾）、内海健晴（塩釜市浦戸）、齋藤吉勝（代々木）、相澤栄喜（同）、星兵喜（同）



▽2等 相澤太（矢本）、津田雅彦（亘理）、千葉勝（石巻地区）、熊谷義宏（鳴瀬）、坂本寿（代々木）、大町昭（松ヶ浜）、星博（同）、伊藤和光（塩釜市第二）

▽技術賞 三浦義孝（矢本）、木村清一（亘理）、石垣久（鳴瀬）、赤間竹晴（代々木）、星一夫（蒲田地区）

内海理事に聞く

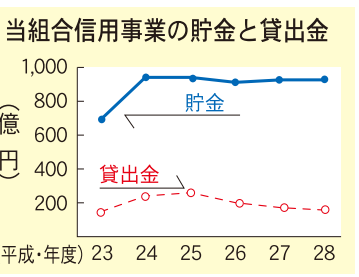
個人貯金が増加 貸出は償還進み減少

信用・共済事業



貯蓄推進での女性の協力を笑顔の内海哲夫理事

年の初めに、組合員の皆さまの生活と漁業経営を支える貯金と貸出金、サポートする共済について、内海哲夫当組合理事（信用共済本部長）に聞きました。



年々の初めに、組合員の皆さまの生活と漁業経営を支える貯金と貸出金、サポートする共済について、内海哲夫当組合理事（信用共済本部長）に聞きました。

で、補助残部分について、現代化資金を活用し、長期資金として対応。船は5年、倉庫は木造なら15年などそれぞれ耐用年数に応じた償還期間があり組合員の利用料が借入金の返済財源として償還が進む。

個人貯金は震災前から信用事業の中核、この増加は心強い。女性部の協力を推進し、例えは8割が補助金、2割が補助残部分だとすると、3組合に対する貸出は、補助金見合分については、補助金が入金になるまで短期資金での対応

住宅ローンの利用を積極的にPRしてきましたが、伸長は。また、あまり喜ばないことですが、昨年はホタテの半成員購入で低利、長期の資金を

共済事業でも貯金と同様、新規獲得分の付加収入や既往の保有高から支所への利益配分を重視している。

バリカン症にひと苦勞

原因不明、経験で乗り切る

当組合宮戸支所（千葉富夫運営委員長）はノリ養殖でバリカン症に頭を痛めながらも乗り切っている。大震災後に被害が大きくなり、経験則からの対策で犠牲や作業が膨らんだ。原因は他産地と同様にはっきりしない。

宮戸支所のノリ養殖

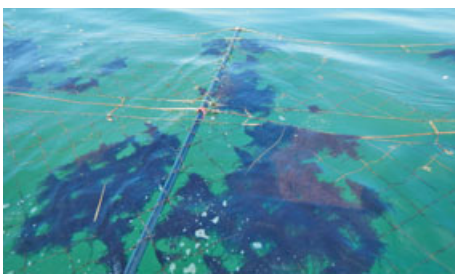
同支所ノリ漁場の約4分の3を占める松島湾外

洋海域でバリカン症が発生する。震災後は今季も含め、この漁場の3分の



佐々木孝支所長

千葉富夫運営委員長



1前後で秋芽を主体に大きな被害が続く。

最初は、黒く伸び網目をふさいだ葉が部分的にバリカンで刈られたようになる。写真のように拡大し、ひどくなると網から黒いところが消え葉が5㎝ほど残るだけ。全く摘採できなくなる。水温が7度程度まで下がると進行はある程度止まる。

千葉運営委員長はこう話す。「昔からの好漁場バリカン症の被害が広がったノリ養殖網

で、震災前から毎年バリカン症が多かれ少なかれ出ていたが、震災後ひどくなった。鳴瀬川の河口の幅が80㍎から200㍎に広がり、台風や大雨で川水が流れ出ると低比重でひどくなることもある。河口の広がりも原因の一つだろうが、問題はそれだけではない。

ノリで残った生産者17人は経験的に鳴瀬川河口に近い内側の漁場からバリカン症が出ると知っている。だから誰もが内側に種網を張りたくないが、秋芽では河口に一番近い漁場から網を張り、犠牲にしてもそれより沖側での発生を食い止めようとする。

震災契機に集まり結成 14人「ここで生きていく」

谷川支所青年部

谷川支所青年部は平成28年秋に誕生。従来浜と浜との交流はあまりなかったが、震災を機に、若手が集まり浜を越えて活動することが自然に増えていった。仮設住宅で過ごすに住んでいた渥美政雄会長と阿部誠二副会長で、これはきちんとした組織をつくるべきという話になった。

部員は21〜42歳の14人。全員がホヤ（親ホヤと種苗）生産に携わり、半数はホタテも兼業する。11人が潜水士免許を取り、鮫浦湾の環境調査や磯焼け対策を行っている。アワビなどの生息状況を調査し、ウニの駆除、コンブやワカメの海中造林などを行い、磯根資源の維持・増殖に努めている。船の上からはわからない磯焼けの深刻さも目の当たりにした。



また同支所は県内のホヤ種苗の8割を生産。12月から1月にかけての採苗時期には、湾内の浮遊幼生調査を行い、漁業者に情報提供している。親ホヤに関しても、健全で身入りのいいホヤの養殖方法を模索。支所から青年部専用の筏を借り、筏、垂下網、株の間隔などを変えて比較試験を行っている。

韓国ホヤ輸入禁止を受け、国内消費拡大のためにPR活動にも余念がない。まずは「みやぎ水産の日」にホヤを販売。こんな売れるんだべかと思っていたところ、1時間前から並んでいる人がいることに驚いたと阿部智和さん。用意した400個はすぐに完売。あまり消費者の反応を見たことがなかった部員たちは、その喜びの顔を忘れられないという。昨年、全くホヤが浸

透していない博多でも魚食普及のイベントに出店。地道に活動することで国内消費拡大の可能性に手応えを感じた。こうした青年部活動を通じ、「今まで自分のやり方（養殖方法）でやってきたが、ほかの人のスキルを見る機会が増えた」と阿部智和さん。渥美会長も「若年世代には教わりたくないことも、先輩になら聞くことができる。活動を通じて、若手に技術を伝えていくことも、青年部の大きな役割と考える。」「一人ではできないことを、皆に相談して形にできるので頼もしい」と阿部副会長。浜も年代も越え一緒に活動することの意義を実感する。こうした活動を県の青年・女性漁業者交流大会で昨年発表し、県の代表に選ばれて3月には全国大会に臨む。「震災後、ばらばらだった鮫浦湾をひとつにしたことが評価されたと思う。どこも青年部が縮小している時代に、今から立ち上げるところはなかなかないと言われました」と渥美会長。発表での、「ここで生きていくと決意し、互いに確認することができたことが大きな成果」との結びが印象的だ。

協同組合論

北海学園大学経済学部教授

濱田 武士

11



参入企業は入会集団の一員で

ちですが、

漁協の多くは、共同漁業権の設定とともに設立されています。事業利用を目的に設立する他の協同組合と異なる点です。合併漁協が多くなつたため、漁協設立時の状況がどのようなものだったのかは忘れ去られが

漁業権制度は、その内

漁業権制度は、その内

漁業権制度は、その内

漁業権制度は、その内

漁業権制度は、その内

漁業権制度は、その内

漁業権制度は、その内

漁業権制度は、その内

豊かな海が四季に恵み、不漁も補完



雄勝町東部支所 組合員数 390 人、うち准 327 人。職員は 4 人。28 年度で購買取扱高が 4000 万円、販売取扱高は 3 億 6000 万円弱。半分強が漁船漁業による活魚・鮮魚、約 4 分の 1 はアワビやウニなど採介藻漁業。ほかにワカメやホタテ、カキ、ホヤの養殖など。

アワビ・ウニ・活鮮魚

同支所の海域は外洋に面しているため、養殖よりは漁船漁業や磯根資源に依存している。追波湾には北上川が流れ込むため、とくに雪解けの春先には、ワカメやホタテの養殖では、早採りをしたり施設を沈めるなどの工夫を要し、非常に手がかかる。川水をかわしても、シケでやられたり、海に出られないこともある。

しかし海は豊かだ。アワビにウニ、そしてワカメも天然ものが採れる県内唯一の支所。今まで採らなかったナマコも最近採り始めたが、その量も豊富。刺網や定置でサケ、ヒラメ、カレイ、タ



大和久男運営委員長

遠藤由紀子支所長

「季節に応じたものが捕れて、本場に豊かな海です」と遠藤由紀子支所長。「何かの不漁でもほかの魚種に助けられる」と大和久男運営委員長も言う。

さらに「浜がきちんとした商品を出すので買受人さんの信頼を得て、雄勝東部と名指しで買ってもらえています。そういういい関係を今後も一生懸命取り持たたい」と遠藤支所長は話す。

「監視船による密漁防止」

「季節に応じたものが捕れて、本場に豊かな海です」と遠藤由紀子支所長。「何かの不漁でもほかの魚種に助けられる」と大和久男運営委員長も言う。

さらに「浜がきちんとした商品を出すので買受人さんの信頼を得て、雄勝東部と名指しで買ってもらえています。そういういい関係を今後も一生懸命取り持たたい」と遠藤支所長は話す。

にも努めてきた。新造船を昨年 9 月から稼働。資源を守りながら堅実に海と共に生活をしていると大和委員長は話す。

油に重宝されている。通り沿いにあるため、組合員たちが通りがかりに声をかけてくれるのも職員の大きな楽しみだ。

でも安定した収入になるような提案をしていきたいと思っています。組合員さんも一生懸命聞いてくれます」と遠藤支所長は話す。

震災前に事務所があった船越には、荷捌所もあり、カキ、ホタテ、ワカメ、ギンザケの養殖漁家が集まっていた。ここがほぼ壊滅し、大きな痛手となった。しかしほかの地区ではもともと高台に集落があり、難を免れた人も多くいた。

「いつか深刻化する問題。」と大和委員長は話す。国が事業を活用し雇用も持っているが、通勤に時間がかかることもあり、なかなか簡単にはいかない。

また雄勝町東部支所と雄勝町西部支所とでは地道な声かけでずっと前から着用率 100%。組合員の意識も高い。

「誇れる信用事業、女性部」

荷捌所が被害に遭い、今は活魚や鮮魚を石巻に水揚げしてもらっているため、またギンザケ養殖業者もいなくなったため、取扱金額は落ち込んだ。

「今年 2 月には着用義務化となるが、同支所では地道な声かけでずっと前から着用率 100%。組合員の意識も高い。」

雄勝町東部

支所を訪ねて

仙台

仙台支所 組合員 74 人、うち准 53 人。職員 2 人。販売取扱高は、28 年度で約 1 億 5000 万円。うち約 6 割が小型底引によるアカガイ。ほかに定置網や刺網、釣り、延縄など。品質がよく希少な仙台湾のアカガイは高値で取り引きされ、資源保護にも余念がない。



伊藤新造運営委員長

穴戸公子支所長

まとめ家族のよう

事務所は仙台湾のそば。「うちの支所はこじんまりしていますが、家族のようにまとまりがあるんですよ。何かあればすぐ起動します」と穴戸公子支所長。

現在の売り上げの 6 割はアカガイ。震災前はノリ養殖業者も 4 軒あり、

支所の主要な水揚げのひとつだったのが、3 軒が廃業を余儀なくされ、現在 1 人が共同で操業している。鮮魚では季節により、シロサケやヒラメ、カレイなどが捕れる。

仙台湾のアカガイは昔から日本一と評価され、高値で取り引きされている。甘みと独特の香りがあり、食感もこりこり。

「火力発電排水に懸念」

「都会ならではの悩み」

「火力発電排水に懸念」

「都会ならではの悩み」

「都会ならではの悩み」

日本一のアカガイ、資源守り続けて

「都会ならではの悩み」

「都会ならではの悩み」

「都会ならではの悩み」

シーフードショー大阪に出店、ホヤに力

—— 2 ～ 3 月の当組合参加イベント ——

参加予定のイベント

イベント名	開催日	開催場所
みやぎ生協かき販促イベント	2月17、18日	幸町、鶴ヶ谷、太子堂、八木山、西多賀、八幡町、愛子、荒井、利府、明石台の10店舗
シーフードショー大阪	2月21、22日	大阪ATCホール
「ふるさと食につぼんの食」全国フェスティバル	3月10、11日	東京・代々木公園

今年も、県内・首都圏をはじめとして、機会あるごとに県水産物をPRしてまいります。2月にはシーフードショー大阪に出展します。とくにホヤについては、韓国の輸入禁止で国内消費の拡大が急がれますが、西に行けば行くほど認知度が下がるのが現状。4年ぶりの関西出展で、東日本で徐々に浸透の兆しを見せているホヤを蒸しホヤなどで販売します。



昨年11月に出展した名古屋市場祭り。蒸しホヤ、ホタテ、カキを完売した